

## 【新潟税務署長賞】

### 「安心して暮らせる社会のために」

新潟市立新潟柳都中学校

三年 北野 知樹

僕にとって一番身近な税というと、消費税だろう。

僕は鉄道が好きで、毎月のおこづかいを貯めて、鉄道の本や模型を買っている。特に模型は価格が高いので、そこに消費税が加わると更に高くなってしまい、税率が引き下げられたいのと思っている。

しかし、税に関する資料を読み、中学生一人あたりの年間教育費が、およそ百十万円かかっていることが分かった。また、教科書が無償配布するための費用として一年間に四百六十四億円が使われることも知った。

毎日あたりまえのように使っている机、いす、校舎などは、多くの人が納めた税金でまかなわれているからこそ、すべての生徒が平等に教育を受けることができている。今までそのことについて意識して過ごしてこなかった。用意されていることが当然のように考えていたが、もしもこれらのことが税金でまかなわれなかったら、各家庭における教育費は更に負担となり、平等な教育が受けられずに、教育格差が広がってしまうだろう。

もう一つ身近な税の使い道として、医療費がある。中学生の僕は助成があるおかげで、一回の診察費は五百三十円だ。指を骨折した時、レントゲンを撮ったりしたが、助成がなかったら、もっと高額になっただろう。

また、生まれてから今まで、さまざまな予防接種を受けた。そのおかげで防ぐことができてきている病気がたくさんある。国によっては十分な医療が受けられず、命をおとしてしまう子供がいる。そういう国の状況をテレビで見て、日本は恵まれていると思いき安心していたが、これも税金が使われているおかげだ。

その他、資料を読み、ごみの処理について新しく知ったことがあった。冬になると海から陸に向かって吹く強風により、流木やプラスチックなどの大量のごみが海岸に流れ着くため、県や市町村が回収、処理しているという。日々の生活に目を向ければ、人の暮らしには必ずごみが出る。町内のゴミステーションは毎回たくさんのごみでいっぱいになっている。収集の回数が少なかったら、ごみであふれてしまうだろう。快適な暮らしのために税金が使われていると知った。

日本は少子高齢化が進み、高齢者の年金や医療、介護などの社会保障を負担する働き手は減っている一方だという。世代を問わず国民一人ひとりが安心して暮らせる社会のためには、消費税率の引き上げが必要だという。税金がどのようなことに使われているのかを学ぶと、その必要性も理解できる。しかし、すべての物の価格が上がっている今、増税は日々の暮らしの大きな負担だ。それだからこそ、国や県、市町村には、税金の無駄使いと批判されるような政策がないよう願っている。